

自立活動学びづくり案

福山市立霞小学校

1 日時 2025年（令和7年）10月31日（金）

2 学年 自閉症・情緒障害特別支援学級2組
(第2学年3名、第4学年4名、第6学年1名) 計8名

3 題材名 伝える・わかり合うってたのしい～すきな本クイズでつながろう～

4 本時の学習活動
人間関係の形成3－(1)(3)(4) コミュニケーション6－(2)(5)

5 題材について

(1) 児童観

本学級には、3学年にわたる8名の児童が在籍している。学級全体では、集団でのやり取りに対して不安や抵抗感は少なく、他者との交流にも比較的積極的に取り組めている。しかし、他者の話を聞き取って理解したり、相手の気持ちを想像したりすることに難しさがある児童も多く、一方的に主張を伝えるだけにとどまる場面もみられる。

本学級における自立活動「人間関係の形成」や「コミュニケーション」に関する児童の実態は以下のとおりである。

第2学年のA児は、他者意識をもって会話をすることができている。しかし、自分と他者の「できる・できない」を比較して否定的に受け取ってしまう場面が見られる。B児は、過去の失敗を想起してしまい、学習に意欲的に取り組めない場合がある。一方で、他者の立場に立って物事を考える姿が見られ、共感的な関わりができる。C児は、集団で活動する際には、説明を聞き漏らしたり、最後まで聞かなかつたりするために、ルールを十分に理解しないで遊ぶ場合がある。

第4学年のD児は、他者からの働き掛けを受け止めることに課題が見られる。E児は、相手の気持ちを想像した適切な表現の方法が十分には身に付いておらず、思ったことをそのまま口にしてしまうことがある。F児は、他者と円滑に会話を進めることができるが、取り組んだことのない活動には消極になる場面がある。G児は、自分の考えを持ち、それを他者に伝えることができるが、相手の意見を受け止めることに課題がある。

第6学年のH児は、比較的どのような活動にも前向きに取り組むことができているが、話の内容をまとめるながら聞くことに課題がある。

(2) 題材観

本題材は、学習指導要領「自立活動」における、3(1)「他者との関わりの基礎に関すること」(3)「自己の理解と行動の調整に関すること」(4)「集団への参加の基礎に関すること」6(1)「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」を主な柱としている。

本題材では、「好きな本」という児童にとって身近で親しみやすい題材を扱うことで、日常的に関心をもっていることから他者との関わりを生み出し、やりとりを通して関係性を築く力を育てていくことをねらいとしている。「好きな本」について語ることは、児童の興味・関心が反映されやすく、主体的に言葉を発しやすい。また、本の内容を通して自分の思いや経験を投影したり、共感したりすることで、自分自身について考えるきっかけとなり、自己理解を深めると同時に、他者理解へつなげていくことができる。

活動の中心に据えた「好きな本クイズ」は、自分の選んだ本に関するヒントを出すことで他者とつながり、ヒントを受け取った側がその意味をくみ取り、問い合わせながら答えを探るという双方向的な関わりを生み出す。特に、チームで協力して答えを導くという構成をとることで、個と個の対話だけでなく、グループ内での意見交換や協同的な活動が自然と生まれるように工夫している。

このような活動は、人と関わることを楽しみにしている児童にとっては、自分の思いを安心して表現し、他者に伝える喜びを味わう場となる。一方で、人との関わりに苦手さをもつ児童にとっても、「本」という媒介を通して直接的なやりとりの負担を軽減し、間接的・安全なかたちで自己を表出できる手段となる。好きな本という共通のテーマをもとにやりとりをすることで、対話のきっかけが生まれやすくなり、言葉のキャッチボールを通して自然と他者との関わりを広げていくことが期待できる。

(3) 指導観

自立活動における指導は、児童一人ひとりの特性や発達段階を的確にとらえ、それぞれの課題に応じた支援を通して、「できた」「わかった」「つながれた」といった実感を積み重ねることが何より重要である。特に、本学級の児童は、対人関係における不安や言語的表現の難しさを抱えながらも、他者と関わりたいという内的な意欲を有しており、その思いを丁寧にすくい取る支援が求められる。

第2学年のA児においては、他者との違いを肯定的に捉えられるよう、「みんなちがっていいね」「○○さんらしさが出ているね」といった肯定的なフィードバックを意識的に行う。B児においては、事前に簡単なゲームゲームで同じ活動の流れをして、活動の見通しをもたせた状態で授業に参加できるようになる。C児においては、活動の流れやルールを視覚的に示したり、めあての確認を繰り返し行ったりすることで、活動への見通しをもたせる。

第4学年D児においては、他者とのやりとりに入るきっかけがもてるよう、グループ内での対話を促す問い合わせや、仲介的な支援を行う。E児においては、言葉の使い方に気付けるよう、「こんな言い方もあるよ」といった具体的な表現例を示しながら、言い換えと一緒に考える。F児においては、活動の各段階にかける時間をあらかじめ知らせ、全体の構成を意識して取り組めるようにする。G児においては、相手の話を受け止める経験を促すために、「○○さんはどう思っているかな?」と相手の考えに目を向けさせる声かけを行う。

第6学年H児においては、聞いた内容を誰かに伝える場面を設けて、「聞いて覚えること」の目的を明確化する。

活動の構成においては、情報の整理・比較・伝達といった認知的スキルを段階的に支援しながら、児童が安心して発言・聴取・反応できるような環境設定と関わり方を大切にすることが指導者の役割である。指導者として、児童の内にある「伝えたい」「つながりたい」という思いを信じ、それを丁寧に引き出し、肯定的に受け止める姿勢を持ち続けながら、児童が自分らしく他者と関われる力を育んでいく

ことを大切にしたい。

学校図書館の活用においては、図書を単なる読書の対象とするのではなく、「出会い」「探究」「発信」を生み出す教材として位置づけ、児童の主体的な学びを支える手立てとして活用する。児童が自分の「好きな本」を選ぶプロセスで図書に親しむ中で、自分の興味や関心、感じたことを言葉にする力を育てる。また、友達の好きな本を知り、興味をもった図書を読んでみるという他者との関わりも、図書を介して生まれる。そうした本との関わりを通して、児童が他者の思いや考えに触れ、読書への関心をさらに高めていくことを目指す。

6 本題材の目標

- 友達の「好きな本」や発言に関心をもち、相手の思いや考えを聞き取ることができる。
- 言葉ややりとりを通して、「伝える・わかり合う」経験を積み、自分や他者への理解を深めることができます。

7 指導の計画（全3時間）

次	時	学習活動案	学校図書館活用のポイント	全体の目標
一	1	<ul style="list-style-type: none">○他者との交流活動の準備として、「好きな本」について考える。<ul style="list-style-type: none">・導入ゲームを行う。（○×クイズや「好きな〇〇」紹介）・教員が好きな本を紹介する。（見本としてのモーデリング）・児童自身の「好きな本」を考える。・ワークシートに「タイトル・あらすじ・好きな理由」を絵やことばで記入する。	<ul style="list-style-type: none">・児童が自分の好きな本を「図書館から自分で選ぶ」経験をつむ。・司書教諭や担任が児童の選書をサポートし、「その子らしい1冊」を見つける。	<ul style="list-style-type: none">・友達の「好きな本」や発言に関心をもち、相手の思いや考えを聞き取ることができます。
	2	○ブックトークの内容を考える。		
二 休憩	3	<ul style="list-style-type: none">○4人1組グループで、もう一つのグループメンバーの「誰がどの本を好きなのか」を当てる活動を行う。<ul style="list-style-type: none">・4人1組でグループをつくる。・自分が選んだ本についてヒントを出す。・相手チーム4名が選んだ本を誰がどの本を好きなのか当てるためにグループ内で話し合う。（相手チームに質問できる時間も設ける。）・正解を発表し、ブックトークを行う。	<ul style="list-style-type: none">・前時に選んだ本を手元に置き、実物を見ながらクイズを実施する。・本を通じて他者を理解する経験を作る。	<ul style="list-style-type: none">・言葉ややりとりを通して、「伝える・わかり合う」経験を積み、自分や他者への理解を深めることができます。

8 本時の目標

(1) 全体の目標

相手の「好きな本」をヒントと照らし合わせて考え、推測する中で、他者への関心や思考を深めることができる。

(2) 個別の目標

児童	目標
A児 (第2学年)	話合い活動の中で、他者との違いを肯定的に受け止めながらやりとりを楽しむことができる。
B児 (第2学年)	クイズやブックトークの活動において、自分の思いを相手に伝えようとする意欲をもって取り組むことができる。
C児 (第2学年)	活動のルールや説明を最後まで聞き、流れを理解した上で、自分の役割を果たそうとすることができる。
D児 (第4学年)	グループ活動の中で、他者の発言や働きかけに耳を傾け、やりとりに参加しようとする気持ちをもつことができる。
E児 (第4学年)	友達に対して配慮した言葉で話すことを意識しながら、自分の好きな本を伝えようとすることができる。
F児 (第4学年)	グループ活動に自信をもって参加し、他者と協力しながらクイズに取り組むことができる。
G児 (第4学年)	自分の考えを伝えるだけでなく、相手の意見や質問を聞き、受け止めようとする姿勢をもつことができる。
H児 (第6学年)	他者の説明やヒントを聞きながら、大事な内容を意識して聞き取ることができる。

(3) 本時の展開

9 板書計画

めあて：グループで友達が好きな本について話し合い、友達のことを良く知ろう。	めあて	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒
今日の活動 ①それぞれのめあてを考える。 ②好きな本について1つヒントを出す。 ③4人1組のグループに分かれて相手チームのメンバーの誰がどの本なのか話し合う。 ④相手チームにしつもんをする。 ⑤結果を確認する。 ⑥自分が好きな本についてブックトークを行う。 ⑦ふりかえりをする。	活動のルール ・グループ全員で意見を出し合ってきめる。 ・話している人がいる時は静かに聞く。	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒
ふり返り ・○○さんが紹介した○○を読んでみたいと思った。 ・クイズでは、みんなで協力して考えるのが楽しかったです。友達のヒントが分かりやすかったです。		黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒	黒